

# 『経』はたて糸

一月十日から十二日までの三日間、雪が降り続きましたね。十日の雪は水気が多く、重たい雪でしたので除雪が大変でした。三日間合計で当山境内地では三十五cmほどの降雪量でした。息子と二人で門徒会館前の除雪をしたのですが、三時間半ほどかかりました。終わった時には二人とも疲労困憊。

日、宮崎別院の報恩講参拝に行きました。無量寿経作法のおつとめの後、福岡教区の松月博宣師のお説教をお聴聞させていただきました。ありがたいお説教でした。その中、善導大師著作『観経四帖疏』のご文をテーマにされたお説教を聴聞し、過去の学びを思い出したのでお味わいをつづります。

年々老化していく一方なので除雪機を買うことにしました。息子が軽トラックに付けられるタイプの除雪板を見つけて、値段も手頃だったので購入しました。

『経』といふは経なり。経よく緯を持ちて疋丈を成ずることを得て、その丈用あり。  
 (『注釈版聖典・七祖篇』 三〇四頁)

購入したのはいいが雪が降らずに今シーズンは終わるかなと思ったら、二月に入り連日雪が降り始め、活躍していません。短時間で除雪作業は終わるし、疲れないし、重宝しています。

お聖教を開いてみると、ピソクのメーカーで印を付けていたので、どこかで学んだこと文だろうと思うのですが、思い出せません。  
 「経」という漢字、辞書で

調べると①たていと②たてなごの意味があります。「緯」は①よこいと②よこなどの意味があります。「疋」はいろいろの意味がありますが、ここでは「匹」と同じ意味で反物を数える単位を表わします。二反(四丈)で一疋になります。「丈」はだけという意味がありますので、「疋丈」は布と言う意味に「丈用」は布のはたらきという意味に理解していただければよいかと思えます。そこでこのご文を訳してみます。

とすると、仏さまは機織り機にたて糸を準備するような手間ひまのかかることを私たちに求めず、すすんでご用意くださっていることになりました。一方、私たちは苦惱にまみれた娑婆世界を「織物のよこ糸」のごとく右往左往しながら、時に喜んだり、時に悲しんだり、時に苦しんで生活しています。そんな私たちを「織物のたて糸」のごとくしっかり支えて下さってあるのが、阿弥陀さまのご本願、南無阿弥陀仏のおはたらきです。

『経』とはたて糸のようなものです。たて糸はよこ糸をささえ布になることで初めて布としてののはたらきを生じます。とてもなりましようか。織物をする際、手間がかかるのはよこ糸よりもたて糸を何本もきちんと機織り機に設置することだそうです。たて糸があるから反物が織り上ります。

阿弥陀さまのお慈悲に気づいた時、安心して右往左往する人生を送っていいのです。右往左往するこの私をしっかりと支えてくださる阿弥陀さまのお慈悲「南無阿弥陀仏」といただきたいものです。

## 法語の世界

### 《原文》

心中のとほり、ある人、法敬坊に申され候ふ。御詞のごとくは覚悟仕り候へども、ただ油断・不沙汰にて、あさましきことのみ候ふと申され候ふ。その時、法敬坊申され候ふ。それは御詞のごとくにてはなく候ふ。勿体なき申されごに候ふ。御詞には、油断・不沙汰なせそとこそ、あそばされ候へと申され候ふ云々。  
 (『蓮如上人御一代記聞書』 二百十六)

### 《現代語訳》

ある人が心に思っていることをそのまま法敬坊に打ち明けて、「蓮如上人のお言葉の通りには心得ておりますが、とかく気がゆるみ、なまけ心が出て、ただただ情けないことです。」といいました。すると法敬坊は、「それは上人のお言葉のとおりではありません。何ともふとどきないい方です。お言葉には、(気をゆるめてはいけません。なまけてはいけません)と、示されているではありませんか」といわれました。

### 《用語の解説》

御詞……ここでは蓮如上人の教化の言葉。  
 覚悟……心得ること。  
 不沙汰……なまけること。  
 勿体なき……もつてのほか。ふとどきな。不都合な。  
 なせそ……してはいけません。

## 初盆会について

本年の初盆会について、日時を決め、お斎の予定をお立ての際は早目にご連絡ください。例年に比べると本年は初盆をお迎えになるお宅が多そうです。受付順に日時を決めます。下記の日時はすでに予定が決まっています。

記

8月13日

11:00	12:00	13:00
14:00	18:00	



## 二〇一八年・春季彼岸会法要のお知らせ

とき 三月二十一日(水) 午前九時半  
 ところ 金光寺本堂  
 勤行 正信念仏偈(草譜)・六首引き  
 講師 未定  
 その他 経本・念珠・式章(門徒・仏协会会员)をご持参ください。  
 法要終了後、仏教婦人会総会を開催します。